

船員確保対策事業の海事教室を実施！

鹿児島内航海運組合(理事長 原田勝弘)は令和6年度船員確保対策事業として、令和7年1月16日(木)に九州運輸局鹿児島運輸支局と連携し、枕崎市にある鹿児島県立鹿児島水産高等学校の海洋科(海洋技術コース・機関コース)1年生27名と教諭3名を対象に、鹿児島市において海事教室を実施しました。

なお、講師には九州運輸局職員と当組合会員会社で、大型RORO船「琉球エクスプレス7(13,631G/T)」(東京～志布志～那覇航路就航)をはじめとして、神戸～大阪～志布志～名瀬～那覇～北九州航路等に計6隻が就航しているマルエーフェリー(株)にお願いしました。

【実施内容】

まず、第一部では、初めに運輸支局船員担当の中村企画官が、「船員の仕事について～基礎知識と現状～」と題し、船員の主な業務や適用される法律、労働環境(一日の勤務時間、年間スケジュール等)の説明後、海運業(内航船舶の紹介)のほか、Webコンテンツ等の紹介があった。

次に、第二部では「海上職員(船員)の仕事」と題し、マルエーフェリー(株)海務部の新村部長が、会社概要として自社船6隻の船舶概要や就航航路を説明後、下記事項について丁寧に説明があった。

- ・勤務環境として勤務サイクルや休暇等
- ・船内居室(各船個室、Wi-Fi全船導入)の処遇改善
- ・船員の役割と分担(船内組織及び各部門毎の業務内容)

その後、同社が求める人材と船員132名のうち50名が鹿児島水産高校卒業生であることもあり、同社に勤務する鹿児島水産高校卒業生アンケートの紹介があった。

最後の質疑応答では、4級海技士(筆記のみ)を持っていれば、採用はどうか、給料はいくらなのか等の質問があり、同社では、まず部員からの採用となり給料は最賃+手当等になる旨の丁寧な回答があった。

(配布資料)

内航海運の活動(令和6年度版)

- ・内航海運～地球にやさしく日本を運ぶ
- ・What is 内航海運?
- ・船の仕事ってなに?(マンガ)
- ・応援ノート
- ・クリアファイル

※午後は、独立行政法人海技教育機構の協力により、1月14日に鹿児島港に入港した「海王丸」の見学会が実施され、これには栽培工学コースの生徒を含めた38名が参加しました。

鹿児島内航海運組合は、内航海運の課題である若年船員確保に向けて、今後も、鹿児島運輸支局と連携しながら、このような取り組みを継続していきたいと考えています。